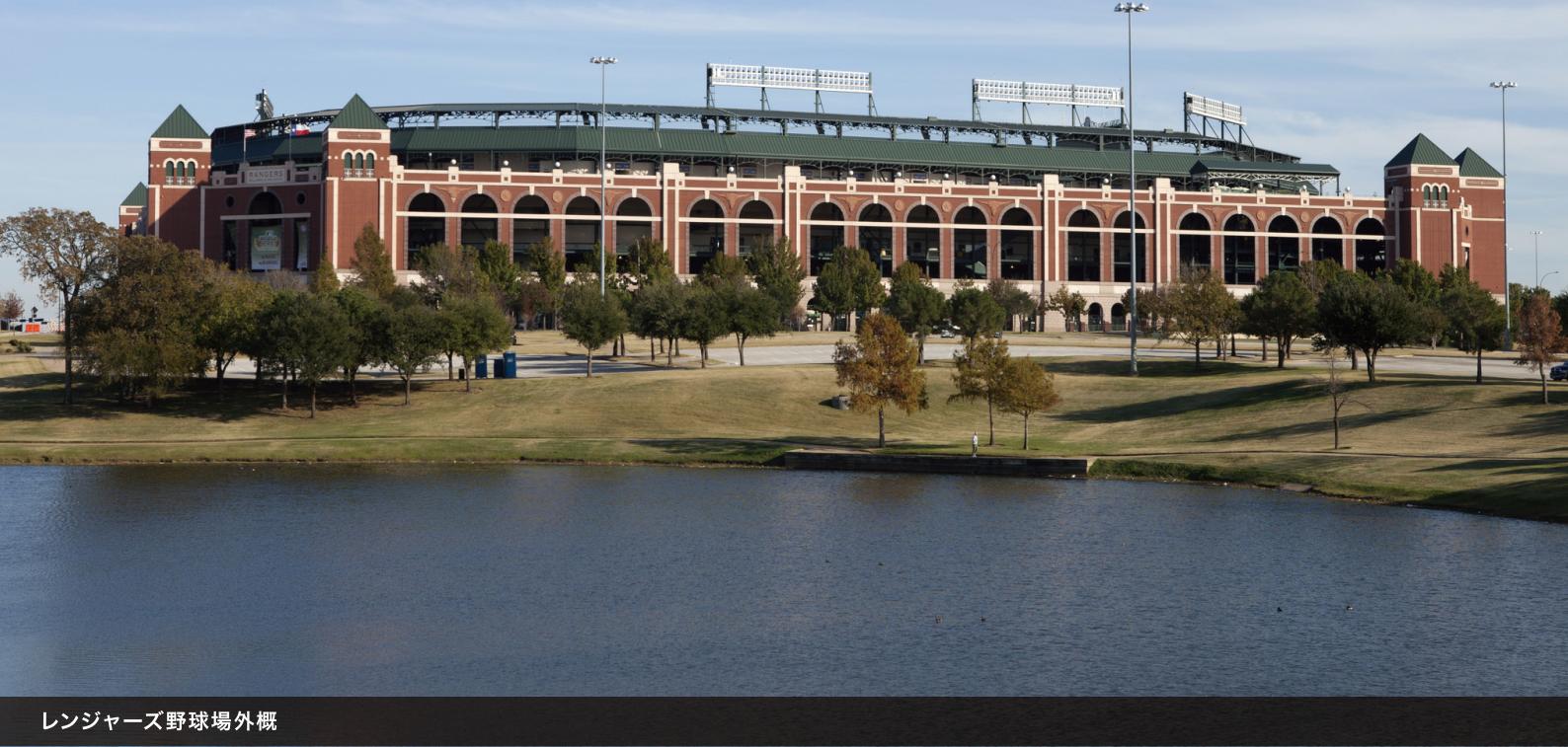


# 草の根通信

Vol.70 (2012年3月23日発行)



レンジャーズ野球場外概

## P12 ほっとINFORMATION

- ・ポール・丸山さん著書  
「満州 奇跡の脱出」  
が邦訳出版されました!



- ・2013年の草の根交流サミット大会は  
**島根に決定!!**



## P12 協賛企業一覧

平成22年度寄附協賛企業一覧

## 特集

第22回サミット大会がますます楽しみになる!  
ノース・テキサス訪問記



- P02 レンジャーズ野球場の裏側探訪  
P04 特別インタビュー

在ダラス日本国名誉総領事 ジョン・ステイツク



- P06 寄稿 「ハート・オブ・ア・サムライ」執筆にあたつて  
マーギー・プロイス

P08 東日本大震災から一年

### ～サミット参加者からのメッセージ～

秋葉陽子さん／千田幸子さん／遠藤駿さん／  
阿部俊彦さん・理恵さん・菜穂子さん・森恵さん／  
太齋京子さん・仁さん・結さん／田村喜子さん／  
今野諭さん／楯石光弘さん／村上謙一さん／  
坂本よし子さん／佐藤金一郎さん・晴美さん／

住所:東京都千代田区麹町2-12-18 グランアクス麹町602  
TEL:03-3511-7171 / FAX:03-3511-7175  
E-mail:manjiro@manjiro.or.jp  
URL:<http://www.manjiro.or.jp>

財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念

国際草の根交流センター

Copyright (C) Center for International Exchange All rights reserved.

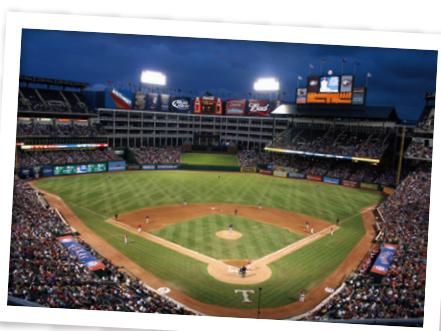
## 特集 ノース・テキサス訪問記

# レンジャーズ野球場の裏側探訪

ダルビッシュ有選手のテキサス・レンジャーズ移籍により、ノース・テキサスが身近に感じられるようになった方々も多いのではないでしょうか。

レンジャーズ球場は、フォートワースとダラスの中間地点、アーリントン市にあります。アーリントンでは、8月の日米草の根交流サミットの地域分科会も開催されますし、オプショナル・ローカル・ツアーのひとつには「レンジャーズ野球場とカウボーイズ・スタジアム」コースも準備されています。

CIE事務局では、一足先にレンジャーズ野球場の裏側を取材してきました。



フォートワースからアーリントンに向けて車で20分くらい走ると、広い大地にレンジャーズ野球場と、アメフトの強豪ダラス・カウボーイズのスタジアムの両方が視野に入ってきます。カウボーイズ・スタジアムが8万人を擁する近代巨大建築であるのに比べ、レンジャーズ野球場の方はレンガ混じりで窓もアーチを描く優雅な佇まい。

テキサス州の象徴である「ローンスター（一つ星）」

マークがいたるところにあります。



アーチ型の窓と、天井近くのローンスター

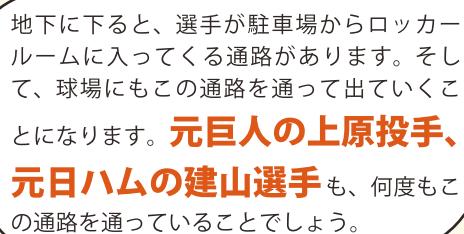


ダッグアウトのワシントン監督の  
ベンチに座るボールさん

ご案内いただいたのは、その名も**ビリー・ボールさん**。  
ご案内いただいたのは、その名も**ビリー・ボールさん**。  
ご案内いただいたのは、その名も**ビリー・ボールさん**。



ダルビッシュ選手も座ることになる  
ダッグアウト



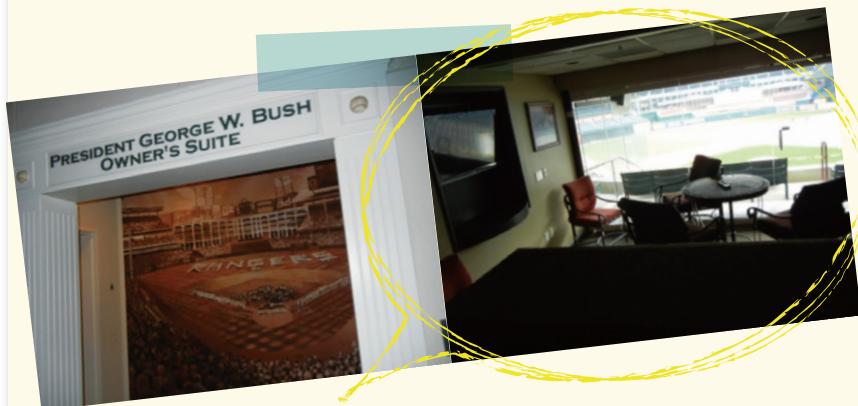
地下に下ると、選手が駐車場からロッカールームに入ってくる通路があります。そして、球場にもこの通路を通って出ていくことになります。**元巨人の上原投手**、**元日ハムの建山選手**も、何度もこの通路を通っていることでしょう。

訪問したのは2月初旬のシーズンオフです。この季節は球場整備に余念がないようで、芝の調整や座席の交換などの作業が行われています。乾燥するテキサスでは、美しい天然芝を保持するのはなかなか大変なようです。4万8千人を擁する球場は、シーズンオフは徹底的かつ大規模な化粧直しが行われているのでした。



こちらは、**ピッティングルーム**。やはり地下にあります。  
投手たちは、試合に出る前にここで肩慣らしをすること。  
**ダルビッシュ選手**が投げる姿が目に浮かびます。

エレベーターで上階に移動して、TVやラジオの中継が行われる**プレスルーム**も見学。何10社も入れるスペースがあります。試合中は、野球解説者、アナウンサーであふれかえっていることでしょう。今年からは、日本に向けた中継も増えそうですね。



ところで皆さん、球場には**特別観戦室**があるのをご存知ですか？これら特別観戦室には、野球に功績のあった人々、テキサスの名士の方々の名前が付けられています。写真は、昔レンジャーズのオーナーでもあったジョージ・ブッシュ元大統領の名前を冠した特別室です。

### 特別観戦室の中にも入ってみました。

試合を見るにはベストの位置ですが、TVもあります。キッチンもトイレもソファもあり、自宅の居間にいながら目の前で生の試合を見られるという贅沢な部屋です。一生のうち一度で良いから、こういうところで野球観戦してみたいものですね。



再び地下にもぐって**記者会見場**に。「ダルビッシュ選手の移籍の際の会見もここで行われたのですか？」という問い合わせに、ボールさんは「あの時は記者の数が多くて、ここでは無理だったの。だから別の場所でやったのよ」とお返事。続けて、「私たちテキサン達は、ダルビッシュ選手がプレーするのを、本当にワクワクして楽しみにしているの」と笑顔いっぱいでお話してくださいました。

ご案内にお礼を言ってお別れする際、ちょっと気になったボールさんの大きな指輪について質問したところ、2010年にリーグ優勝した時の**「チャンピオン・リング」**だそうです。ただ、アメリカン・リーグで優勝はしたもののワールド・シリーズでの優勝は、ナショナル・リーグ優勝のサンフランシスコ・ジャイアンツに敗退。そうです！皆さん覚えてますか？2010年はサンフランシスコでサミット大会が行われた年で、その時にサンフランシスコ・ジャイアンツがワールド・シリーズで優勝したのです。ということは、サミット大会がノース・テキサスで行われる今年は、レンジャーズが優勝するはずです。ダルビッシュ選手も加わり、これは本当に実現しそうです。皆さん、ぜひノース・テキサス大会に参加して、レンジャーズ野球場に行きましょう！！



## 特集 ノース・テキサス訪問記



**Q** スティックさんは 12 年に渡ってダラス・フォートワース日米協会 (JASDFW) の理事を務めていらっしゃいますが、そもそもそのきっかけは何だったのでしょうか？

**A** 私は仕事の関係で、台湾に 4 年、香港に 12 年、日本に 8 年住み、1999 年にテキサスに帰ってきましたが、もうアメリカ人というよりアジア人に近くなっている自分に気が付きました。そして、何かアジア関係の団体でボランティアをしたいと思い、いくつか探したところ、JASDFW がもっとも応援するにふさわしい団体だと思い、妻といっしょに参加しました。理事になつたのは 2000 年で、2001 年には理事長職も務めました。今は名誉理事という立場です。妻のクリスティアナも 10 年以上にわたって理事を務めています。

**Q** 日本のどんなところがお好きですか？

**A** 公共の交通機関、つまり電車や地下鉄などが清潔で安全、そして時間どおりに運行されているところがすばらしいですね。それから、そば、てんぷら、お寿司など、日本の食べ物も大好きです。日本にいる時は原宿の寿司店によく行ったものです。

**Q** 日本国名誉総領事というタイトルもお持ちですが、どのようなお仕事ですか？

**A** 日本の外務省、また米国の国務省の両方から任命されている役職です。日本の総領事館はヒューストンにありますが、ダラス・フォートワース地域はかなり遠距離ですから、この地域の在留邦人の利益の保護・増進、また日米交流の促進等の仕事をしています。具体的な例をいくつか紹介しますと、ある日本の方が肝臓移植手術をこちらで受けられましたが、残念ながら亡くなられたケースがありました。そのご遺体を日本にお返しするにあたって、病院では方法が分からず途方にくれ、連絡を受けてその手配をしました。また、旅行中に残念ながら事故で亡くなられた方を火葬にふし、ご遺灰を日本にお送りしたこともあります。ラッキーなケースとしては、偶然に日本のパスポートを拾われたこちらの方からそのパスポートをお預かりしたところ、その翌日に、持ち主の若者から電話を受けて無事にお返しできたということもありました。

反対に、アメリカの方からのご相談も週に 3 ~ 4 件あります。訪日にあたってのビザに関する問い合わせなどですね。

国際交流も重要な仕事で、日本語スピーチコンテスト、お月見イベント、餅つき大会などが開催される時に、日本国を代表してご挨拶をしています。

名誉総領事の任期は 5 年で、現在 2 期目に入っています。

## 特集 ノース・テキサス訪問記

**Q** ノース・テキサス大会では、運営委員会の副委員長を務めていらっしゃいますが、どのような役割を担われていますか？

**A** 全体の運営を具体的に調整することです。また、オープニングやクロージング等に係る費用を捻出するための募金活動も担っています。幸運なことに、以前勤めていた会社や、名誉総領事の仕事を通じて広いネットワークを構築してきましたので、それを生かして募金活動をしています。

**Q** では、ぜひ日本の方々に、テキサスの魅力をご紹介ください。

**A** 「テキサス・サイズ」という表現がありますが、テキサスには広大な平野が広がっています。大牧場があり、石油の掘削も行われています。こうした光景は日本とは全く異なります。また、フォート・ワースからのキャトル・ドライブ（牛追いの旅）など、独特の歴史を持った土地柄もあります。

それから、テキサスならではの料理も楽しんでいただきたいですね。テックスメックス（テキサス風メキシコ料理）と、ジューシーなステーキが有名です。でも、もうひとつ忘れてならないのはテキサス・バーベキューです。日本の方々は、バーベキューというと、戸外で肉や野菜をグリルするものというイメージでしょうが、このテキサス・バーベキューは別物です。低い温度で18時間から24時間もかけてスモークして焼き上げた牛肉です。とても柔らかいのが特徴です。サミットに参加される皆様には、オープニング・レセプションで召しあがっていただく予定です。



テキサス・バーベキュー

**Q** サミット大会の運営を通して、スティックさんが達成したいと思っておられているのはどのようなことでしょう？

**A** 第一の目標は、ご参加いただいた日本の方々、またノース・テキサスのホストファミリーやボランティアにも、「最高の大会だった」と言っていただくことです。また、大会を通して、日本の皆様はアメリカの友人であるという理解をこの地域で広げていきたいと思っています。そして、大会をCIEと共にJASDFWが、この地域において第一級のNPOであることも示せれば幸いです。そのためにも、ぜひ多くの日本の方々に参加していただきたいと願っています。なにしろ、テキサス人は大きなことが好きなのですから。

### ノース・テキサスでサミット記者会見開催！

2月8日、ノース・テキサスのラス・コリナス商工会議所ホールにおいて、来るサミット大会の記者会見が開催され、約40名の記者や地域のキーパーソンらが参加しました。

会見では、ジョン・スティックさんがサミット大会の概要を写真等を交えながら説明。楽しい雰囲気の中で進められました。この後、ノース・テキサスのローカル新聞や雑誌などでサミット大会の記事が掲載されています。

詳細は、次の英文ホームページをご覧ください。

<http://www.northtexasgrassrootssummit.org/>



写真：IROHA(ダラスの日本語紙)より提供

Heart of a Samurai : 侍の心

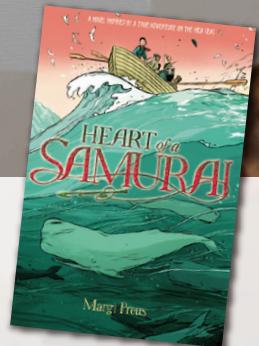
## 「ハート・オブ・ア・サムライ」の執筆にあたって

マーギー・プロイス (翻訳: 下山淳子)

## John Manjiro and Captain Whitfield



2010年にアメリカで児童文学賞を受賞した万次郎の小説「ハート・オブ・ア・サムライ」の著者マーギー・プロイスさんが、去る1月22日にダラスにて講演を行いました。そのお話の内容を要約してご寄稿いただきました。



数年前、ローダ・ブルームバーグさんが書いた絵本「Shipwrecked (難破)」の中で私は初めてジョン万次郎と出会いました。その時は予想もしていませんでしたが、この出会いがきっかけで私はたくさんの心ときめく経験をすることができました。日本をはじめアメリカ全土を渡り歩き、多くの人々と出会い、たくさんの友人をつくることができました。そして、私自身が書いた児童小説「ハート・オブ・ア・サムライ」を通してアメリカの子ども達にも万次郎について伝えることができたことに感謝しています。(日本でも集英社から「ジョン万 海を渡ったサムライ魂」(仮題)として6月末に発行予定です。)

学校の子どもたちに話をする際に私はいつもこう言います。「皆さんに会いに来たのは、170年前に生まれた友情のお話をするためにです。その絆があまりにも強かったためいまだにその友情は続いています」。

それから万次郎について話をします。1841年に鳥島で、彼とそして4人の漁師仲間を救った捕鯨船のホイットフィールド船長との出会いと、その後に育まれた友情について語ります。

たくさんの帆を掲げ、その縄梯子を昇り降りする大勢の水夫達を乗せたジョン・ハウランド号の様子は、万次郎にとっては驚くべき光景だったことでしょう。万次郎と4人の仲間はいまだかつてこのような船を見たことがなかったのではないかと思います。そしてこれはその後続く様々な驚くべき出来事の始まりでした。捕鯨船に乗った彼らを待ち受けているのは数々の初めての経験でした。ナイフとフォークを使った食事、初めてのパンの味、ポケットやボタンのついた洋服、皮のベルトや革靴、そして英語での会話(船上の人々が話していたであろうその他の全ての言語もしかり)。椅子に座ることでさえ彼らにとっては初めての経験だったかもしれません。そして、背の高い、ひげの生えた、鼻の大きい目の青い人々。それまで「野蛮人」と言われている人々について聞いたことはあったとしても、実際に出会ったのは初めてだったことでしょう。確かに西洋人は色々な意味でその「野蛮人」に当たはまる一面を持っていたかもしれません。大きくて、毛深く、礼儀知らずで、手で物を食べ、荒々しい捕鯨に携わっていた。そしてクジラを捕っていた故に本当に臭かったと思います。



ダラスで講演するプロウスさん

それにもかかわらず、万次郎は思いもよらない行動をとりました。彼はこの人々と友達になったのです。万次郎は彼らの言葉を学び、船上で彼らの手助けをし、わからないことは聞きました。彼は広い心を持ち続けました。生徒達に私が言っているのは、この友情の絆はとても強く（普通ではありえない友情だったからこそかもしれません）、今でも続いているということです。両家が今でも友情で結ばれているだけではなく、その絆は「日米草の根交流サミット」という形で続いています。両家の間に続いている長い友情の絆が、多くの人々を結びつけ、彼らの間にも友情が芽生えていることを私は大変嬉しく思います。

私が話をした生徒達は両家の長く強い友情を知り驚き興奮しています。そして、万次郎の冒険に魅了されています。時には真実が作り話より信じがたいこともあります！

私のジョン万次郎との出会いのきっかけは、「The Peace Bell (平和の鐘)」という本を書く為に調べ物をしていた時でした。この本は、私の故郷ミネソタ州ダルースが千葉県大原（現いすみ市）と姉妹関係を結んだ実話に基づいた絵本です。両市の友情の懸け橋となったのは昔からあった美しいお寺の釣鐘でした。この鐘も第二次世界大戦中には金属であるとして供出されましたが、なぜか溶解をまぬがれました。戦後日本に駐留していた米国戦艦ダルースの乗組員が横浜の造船所でこの鐘を発見し、戦利品として米国へ持ち帰ることにしました。そして、艦隊の名の由来となったミネソタ州ダルース市にその鐘を寄贈しました。その9年後、釣鐘

が大原のお寺のものだと知ったダルース市長は故郷の大原にお返しし、その鐘は日米友好平和の鐘と呼ばれるようになりました。その後何年もたってから両市は姉妹都市となり、その際にダルース市にも鐘が送られました。大原町は現在いすみ市に代わりましたが、今でも大変暖かい友情が育まれています。二つの鐘は毎年9月11日に同時に鳴らされますが、その音が海を越えて平和のメッセージを共鳴させられるよう、それにふさわしい場所に吊るされています。

「The Peace Bell (平和の鐘)」の友情が、もう一つの友情である万次郎の話へつなげてくれたのです。その後、「ジョン万物語」（文：田中裕美とウエルカム・ジョン万の会、絵：アーサー・モニーズ）という素晴らしい絵本や中濱京さんの「ジョン万次郎」という大変魅力的な本とも出合いました。

執筆には3年もかかってしまいましたが、個人的にはいいタイミングだったと思います。丁度この本に取り掛かっていた時、アメリカはイラク戦争の真最中で、アメリカ人の多くがイスラム教徒に対して深い怖れを感じていました（今でもそれは続いている）。彼らのほとんどは平和を愛する人々であるのに、彼らに恐れと怒りが向けられていることを私は悲しく思っていました。でも、万次郎について、そして彼をめぐる異文化間における相互理解と人と人、国と国との間の平和な絆について書くことで私の心は癒されました。私が知る限り、このような話はそんなに多くありません。人は違うところよりも似ているところの方が多いということ、たとえ違いがあったとしても友情の妨げにはならないということを私達は常に自分に言い聞かせなければいけないと思います。

最後に子ども達への話を締めくくる時に私はいつもこのように言います。「万次郎は自分が世の中の動きに一役買うことになろうとは思ってもいませんでしたが、実際は大きな役割を果たしました。その全ては、彼が自分とは異なる人間と友情を結ぼうとしたことから始まったのです。これは私達みんなもできることです。ひょっとしたら私達もまた世界を変えていくことができるかもしれません」。



熱心に話を聞く参加者達

## 東日本大震災から一年

### サミット参加者からのメッセージ

東日本大震災後、CIE にはサミット大会のアメリカの参加者やホストファミリー、日本のサミット大会参加者の方々から、みやぎ大会でお世話になった方々の安否や連絡を取りたい等、多くの問い合わせが寄せられ、ホームページ等での情報提供やメールでの翻訳サポートを行ってまいりました。アメリカのサミット大会関係者の多くがそれぞれの地元で募金や支援活動を行い、そのなかには何度も来日した方もいらっしゃいます。震災から 1 年が経ち、近況やメッセージをお寄せくださいとお願いしたところ、たくさんのお返事をいただきました。ここに掲載させていただくとともに、財団ホームページにも英語版を掲載しアメリカのみなさんにお届けする予定です。



**秋葉 陽子さん**

(仙台市) 2009 年みやぎ大会ホストファミリー

高校生だった娘も大学生になり、忙しい生活をしていました。そして 3.11 です。  
家は半壊し、いまだに修理できない状態ですが家族は皆無事で元気にしております。

**みやぎ大会参加者モーガンちゃんへ**

地震の恐さと放射能の恐さであまり生きた心地がしませんが、あの 2009 年サンフランシスコから来ていただいた方々との楽しいふれあいなどを思い出しては元気をいただいております。また皆様にお会いできたらいいなと思っています。心配してメールをくださってありがとうございます。



千田幸子さん (右側)



**千田 幸子**

(多賀城市) 2010 年サンフランシスコ・ベイエリア大会参加者

震災の時は励ましのお言葉をありがとうございました。  
生活が元に戻りましたが友人の親類の方や高校の同期生などはまだ見つかっていない…ということもあります。

娘家族が住んでいるサンフランシスコのサミット大会に 2 年前に参加しました。そして今年の 6 月にひと月ほど滞在する予定です。サンタ・ローザのホストファミリーを訪ねて孫娘とスヌーピー博物館に行くつもりです。



**遠藤 駿さん**

(塩釜市) 2010 年サンフランシスコ・ベイエリア大会参加者

僕が住んでいるこの塩釜市は、全員の復興への願いと行動のおかげで元の生活を取りもどしつつあります。  
僕も元気に学校生活を送っているので、皆さん安心してください。

**サンフランシスコ・ベイエリア大会ホストファミリーのスプリンガーハウスさんへ**

お元気ですか？なかなか連絡できなくてすみません。僕達は復興へ 1 歩ずつ近づいて、元の生活を取りもどしつつあります。僕は学校の野球部のキャプテンになりました。だから、チームをうまくまとめられるように日々努力しています。だから心配しなくともだいじょうぶです。僕は皆さんのこといつも想っています。それではまた連絡します。See you!!

Your family Takashi.



遠藤君 (左から 2 番目)



シドニーさん (左から 3 番目)



**阿部俊彦さん・理恵さん・菜穂子さん・森恵さん**

(石巻市) 2009 年みやぎ大会ホストファミリー

宮城県石巻市は大きな被害がありました。現在、石巻市立門脇小学校の記録映画を作成中。2 月には証言編、8 月には本編ができあがります。また石巻市立万石浦小で亡くなった ALT のティラー・アンダーソンさんの記念文庫の担当となり、最後の仕上げをしています。

**サンフランシスコ・ベイエリア大会のシドニー・ナカムラさんへ**

石巻市への寄付金やアベファミリーへの支援品の数々、本当にありがとうございました。みんな元気で一歩ずつ前に進んでいます。今、震災の記録を作っています。できあがったら読んでください。



**太齋 京子さん・仁さん・結さん**

(本吉郡南三陸町) 2009 年みやぎサミット大会ホストファミリー

東日本大震災では、多くの方から温かい心遣いをいただき本当にありがとうございました。いただいたパッチワークのひざかけは、本当に暖かくまた華やかな柄に気持ちも明るくなりました。1 年が経ち、町では仮設商店街がオープンするなど、少しずつ日常が戻ってきています。心の傷は消えませんが、人は人の支えで前に上に進むことができるのだと実感しています。

**みやぎ大会参加者チアリーさんへ**

震災後届いていたメール、とても嬉しかったです。ありがとう。  
仁も結も元気でいます。いつかまたお会いできる日を楽しみにしています!!



チアリーさん (前列左から 2 番目) と太齋さん親子

# 東日本大震災から一年

## 田村 喜子さん

(仙台市) 2008年ケンタッキー大会参加者

1,000年に一度といわれる大きな震災から早いもので一年になろうとしています。町中では、連日様々な建物がこわされていき、被害の大さを認識せざるを得ません。

日々の生活を大切にしていきたいものです。

### ケンタッキー大会リック&メアリー・エレン・ハーンさんへ

参加の節はたいへんお世話になりました。とても大切な思い出となっております。大震災は幸いにも身辺への大きな被害は無く、無事に過ごしています。ハーンご夫妻も末永くお元気でいらしてください。



ローレンス・ロジャーズさん  
(後列左から2番目)



## 今野 諭さん

(石巻市) 2009年みやぎ大会ホストファミリー

石巻に住んでいます。こちらでボランティアなど手伝いながら、街の復興の助けをと活動しています。家族も元気です。

### ローレンスさんへ

たまたま日本にアメリカからのプレゼントを持っていらしたメグミさんに会い、ローレンスが大学で勉強を頑張っていると聞きました。我が家は幸いみんな元気ですので、機会があればいつでもまた日本に来てください。

## 楯石 光弘さん

(石巻市) 2009年みやぎ大会ホストファミリー

いろいろとお世話になっております。お蔭様で毎日元気であります。

この度被災者自らが立ち上げたミュージカル「ありがとうを言いに行こう♪プロジェクト」を妻と応援、参加しています。3月18日東京銀座公演を目指し稽古中です。3才から83才までの男女100名以上で頑張っています。世界各国からの多大な支援に対して、心から感謝したいと思います。

<http://minna-arigato.com>



ジョン・ホワイトさん(右端)



## 村上 謙一さん

(刈田郡蔵王町) 2009年みやぎ大会ホストファミリー

### ジョン・ホワイトさんへ

蔵王町国際交流協会のスタッフとして、主に東北大学留学生たちへのイベントを計画し、実行しています。留学生のホームステイも引き受け、国際交流を広げています。

## 坂本 よし子さん

(白石市) 2009年みやぎ大会ホストファミリー、  
2010年サンフランシスコ・ベイエリア大会、2011年高知大会参加者



エバリン・ハラさん(右側)

### エバリン・ハラさんへ

宮城県でも被害の少なかった地域に住んでいますので、少しづつ支援できることを行っています。

## 佐藤 金一郎さん・晴美さん

(石巻市) 2009年みやぎ大会ホストファミリー



スコット&スティシー・ホイットフィールド夫妻  
右から2番目3番目

石巻の地に来ていただいてから丸三年をまもなく迎えます。そして3.11から1年です。海のそばの我が家ですが、家は大規模半壊です。大工さんに手を入れてもらい、多少傾いた家で生活しております。雄勝・鮎川はすっかり流失しました。「なんだこりゃ丸」(海をめぐりました)は船、家もそして土地もすっかり消えてしまいました。「まんが館」のみ残っています。消えつつある町の一角で主人と二人復旧にむけて何とかがんばっております。

### スコット&スティシー・ホイットフィールドさんへ

お元気ですか?

息子さん娘さんも成長していることでしょう。



いつも新しい空を目指して。

**ANA**

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) [www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、  
様々なビジネスを創造してきました。  
それでも、まだまだ成長過程。  
人のため、社会のために、  
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。  
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、  
ひとつの思いから。

[www.mitsubishicorp.com](http://www.mitsubishicorp.com)

 三菱商事

## ほっとINFORMATION・協賛企業一覧

### ポール・丸山さん著書「満州 奇跡の脱出」が邦訳出版されました！

CIE-US 理事であり、南コロラド日米協会会长のポール・丸山さんの著書「Escape from Manchuria」（草の根通信 65 号参照）が、この度「満州 奇跡の脱出」というタイトルで邦訳出版されました。

約 170 万人の在満日本人の引き揚げを実現させた 3 人の日本人のノンフィクションです。丸山さんの父である丸山邦雄氏を含む、使命に燃えた 3 名の献身的な活躍を、歴史的背景および満州の日本人の暮らしぶりとあわせてヴィヴィッドに描いています。

出版社である白樺舎のホームページ内には、この本のコーナーも作られ、「年表」「地図」や「登場人物」等のページもあります。アマゾンからもご購入いただけます。

→ <http://www.hakurosya.com/manchuria/index.html>



#### 丸山さんからのメッセージ



ポール・丸山さん

多くの日本の方々、特に戦争を知らない若い世代に読んでいただきたいです。また、今の日米親善は、終戦後の元敵国の大マッカーサー元帥並びにアメリカ軍の、罪の無い日本国民に対する寛大な措置に基づいていると私は思います。ですから、特に日米草の根交流に関係しているCIEの皆様には著書は最も適切な本ではないかと、著者である自分は思います。



### 2013年の草の根交流サミット大会は、島根県に決定！！

来年の草の根交流サミット大会は、日本の島根県の各地で開催されます。

オープニングは出雲市、クロージングは松江市で、また地域分科会は 10 の地域で準備を進めます。出雲大社は現在、60 年に一度の大遷宮が行われており、2013 年には本殿の御修造がととのい「本殿遷座祭」が予定されています。サミット大会は、まさにこの年の開催。アメリカの参加者には、出雲大社をはじめ、山陰の文化・芸術に触れ、地元の方々と末永く続く友情を育んでいただく予定です。

大会長は県知事の溝口善兵衛氏、また実行委員長には有馬毅一郎氏が就任。第一回の全体協議会は去る 2 月 25 日に松江で開催され、各地からキーパーソンの方々も集まりました。



しまね大会実行委員会の皆さん



### 平成22年度協賛企業一覧

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／曙ブレーキ工業株式会社／アサヒビール株式会社／イオン株式会社／NTTコミュニケーションズ株式会社／株式会社関電工／キッコーマン株式会社／キヤノン株式会社／キリンホールディングス株式会社／四国電力株式会社／住友化学株式会社／全日本空輸株式会社／株式会社大庄／中部電力株式会社／株式会社デンソー／東京海上日動火災保険株式会社／東京電力株式会社／豊田合成株式会社／トヨタ自動車株式会社／株式会社豊田自動織機／豊田通商株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／日本ユニシス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／株式会社ブリヂストン／丸紅株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／三菱商事株式会社／三菱食品株式会社／明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社